

# 第12回 口腔機能って何だろう？

＝ 口腔機能は、成長ホルモン分泌や食欲に関係する ＝

北九州在宅医療・介護塾  
塾長 久保 哲郎

前回から消化器系機能に話題を移しました。今回は胃の粘膜から分泌される「グレリン」について紹介します。

グレリンは、下図のように主に胃の内分泌細胞から分泌されるホルモンで、血液を介して脳下垂体に対しては成長ホルモンの分泌に関係し、視床下部に対しては胃酸分泌と胃の蠕動運動を亢進し、食欲を増進させるといわれています。

成長ホルモンは骨の伸長や筋肉の成長、栄養素の代謝促進、血糖値上昇や、体の恒常性を維持し、エネルギー不足時に体内の脂肪組織からエネルギーを補填したり、損傷治癒促進に関係する等、成長・発育時期の乳幼児期は勿論のこと、「寝たきり状態」にある要介護高齢者に対しても大変重要なホルモンといえます。

ここで、特定医療法人北九州病院 北九州中央病院と九州歯科大学老年障害者歯科学

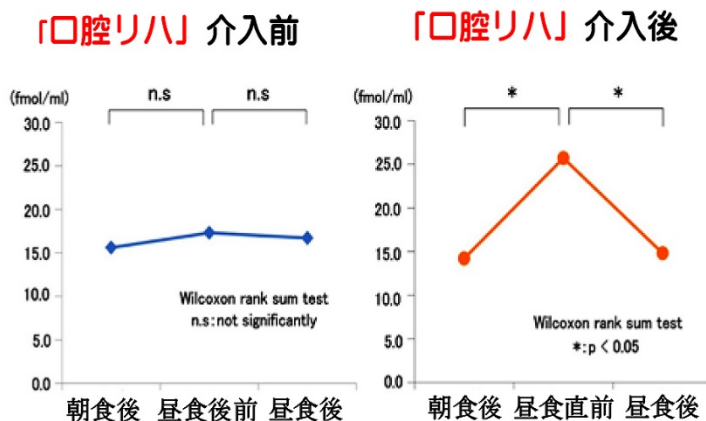
分野との共同研究による「口腔リハ」介入前後のグレリン変動”について紹介します。

北九州中央病院の介護療養病床に入院されている6名の患者に口腔機能改善を目的とした「口腔リハ」を行ったところ、介入前にはグレリン変動はみられませんでした。介入3か月後には昼食直前にはグレリン濃度に変動が確認され、このことによってグレリン分泌は口腔機能と密接な関係があることが分かりました。

この結果を踏まえ、「自分の口を使って食べることができない」ことに対する理由として、口腔機能低下によって「食欲」が低下していることも視野に入れておかねばなりません。

要介護者の状態改善を図るためには、成長ホルモンの分泌や食欲に関係するグレリンと口腔機能が密接に関与していることを考慮に入れ、口腔機能が低下している場合には、その改善に積極的に取り組むことが必要といえます。

## 「口腔リハ」介入前後のグレリン変動



## グレリンの作用経路



(九州歯科大学 老年障害者歯科学分野 木村貴之、韓国障害者歯科学会、2012) より